

令和6(2024)年度

Meio University
Graduate School of Nursing

名桜大学大学院

看護学研究科 看護学専攻

[博士前期課程]

Contents

看護学研究科長あいさつ	P.1
看護学研究科教育理念	P.2
養成する人材像	P.3
教育目的	
教育目標	
ディプロマ・ポリシー	
カリキュラム・ポリシー	
入学定員、アドミッション・ポリシー	
社会人も学べる教育環境	
修了後の進路	
教育課程	P.4
教育課程の概念図	
専門領域の紹介	P.5-6
在学生からのメッセージ	P.7-8
大学院で学ぶQ&A	P.9
学費等納入金・施設マップ	P.10
令和6(2024)年度 大学院看護学研究科入学者選抜概要	P.11
名護市内アクセスマップ	



公立大学法人

名桜大学
MEIO UNIVERSITY



名桜大学 基本理念

平和・自由・進歩

名桜大学は、平和を愛し、自由を尊重し、人類の進歩と福祉に貢献する国際的教養人と専門家の育成を建学の精神とする。

ご挨拶

高度実践看護師の養成と看護学の教育・研究のさらなる発展に向けて

沖縄のケアリング文化を基盤に地域の健康問題を創造的に解決できる専門性の高い看護実践能力と看護の教育・研究能力を有する人材育成を目指して平成23年度に開設された本学看護学研究科看護学専攻（博士前期課程）は、今年度で13年目を迎えました。本研究科を修了された56名は、臨床や地域で活躍されている方、大学の教職に就いた方、博士後期課程へ進学された方など、活躍の場を広げています。本研究科では令和4年度より看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）を開設し、看護学の発展に寄与する高度な研究能力を有した教育研究者を育成する環境が整いました。さらに、高度実践看護師の養成としては令和6年度がん看護専門看護師教育課程の開設に向けた準備を進めております。



看護学研究科看護学専攻
（博士前期課程）

研究科長

玉井 なおみ

近年の新興感染症の猛威や自然災害、AI技術の発展などにより私たちの生活様式が変化中、少子高齢化、疾病構造の変化、医療の地域格差など、我が国における健康問題は、複雑化、多様化しております。それらの問題に対し、私ども看護職には高い倫理観に基づく高度な看護実践や看護学のさらなる発展が求められております。

本研究科では看護実践能力の向上や教育・研究能力を高めたい看護職者に対し、働きながらも研究が遂行できるように、学修環境を整えています。具体的には、夜間の授業の開講やICTを活用した遠隔授業、長期履修制度の導入、大学院生専用の学修室と講義室を完備し、各院生には机とキャビネット、パソコンを1台ずつ配置しております。

高度実践看護師の養成および看護学のさらなる発展に向けて、一緒に看護を創造される方をお待ちしております。



ケアリング文化に根ざした看護学の実践的開発は
環太平洋をはじめグローバルな世界へと開かれていく。

博士前期
課程

研究科名 看護学研究科 Graduate School of Nursing
専攻名 看護学専攻 Department of Nursing
学位 修士(看護学) Master of Science in Nursing (MSN)



看護学研究科 教育理念

本学は、沖縄県北部12市町村の「公設民営」の大学として設立され、2010年4月、北部広域市町村圏事務組合を設立団体とし、公立大学法人に移行した経緯から、教育・研究の両分野において沖縄県北部地域との連携が重視されています。

北部12市町村は、過疎化、山間へき地、離島を含む広大な地域であり、医療機関や療養施設・医療人材の慢性的な不足、医師不在による産科病棟の休診、妊産婦の低い受診率、山間へき地の孤立した育児環境、生活習慣病の増大、心を病む人の増加、救急医療や在宅療養資源(サービス)の不足など人々の健康を守るには多くの課題を抱えています。一方、長い歴史の中で、「ちむぐる」や「ゆいまーる」という沖縄特有の相互扶助の精神が息づいており、恵まれた自然の中で医食同源の生活を送ってきた長寿の人々が暮らす地域でもあります。しかしながら、健康長寿社会を支えてきたこれらの地域の歴史や文化が失われつつあり、住み慣れた地域でその人らしい生活を再構築できるように支援するかわりは重要になります。上記の課題を解決・支援できる高度な専門的技術を持つ看護実践者、教育者・研究者を養成することを目指し、看護学研究科を設置いたしました。

看護学研究科は、名桜大学の建学の精神である「平和・自由・進歩」を踏まえ、生命の尊厳と人権を尊重し、擁護する倫理観と豊かな幅広い人間性を培うとともに、その人がその人らしく生きられるように、沖縄のケアリング文化に根ざしたケアを提供できる看護職者を育成します。

また、保健・医療・福祉を統合的に捉え、社会のニーズに対応し、地域社会および国際社会に貢献しうる実践能力のある健康支援人材を育成することを目標に、沖縄の歴史やケアリング文化を基盤として、地域の健康問題を創造的に解決していく看護実践能力の育成とグローバルな視野で看護の新たな価値の創出を目指した教育・研究能力を育成することを教育理念とします。

健康長寿社会を支える文化、精神を 看護科学として体系化



沖縄県北部12市町村 医療・保健の課題

- ✳ 医療機関や療養施設、医療人材の慢性的な不足
- ✳ 医師不在による産科病棟の休診
- ✳ 山間へき地の孤立した育児環境
- ✳ 救急医療や在宅療養資源の不足
- ✳ 高齢者の介護問題
- ✳ 生活習慣病の増大
- ✳ 妊産婦の低い受診率
- ✳ 心を病む人の増加

問題解決

高度な専門的技術を持つ看護実践者、
研究者・教育者の育成

養成する人材像

看護学研究科は、地域に根ざし地域の健康問題を創造的に解決していく卓越した看護実践能力の育成と看護現象の解明を目的とした研究能力の開発、看護の新たな価値の創出を目指し、高度専門職業人及び教育・研究者の養成を目的としています。

(1) 高度専門職業人の養成

地域の看護需要に対応して問題を解決するための指導的役割を果たす看護実践のリーダーを養成します。

(2) 教育・研究者の養成

ケアリング文化に根ざした看護教育を探究する教育者及び研究者を養成します。

教育目的

名桜大学大学院看護学研究科博士前期課程では、博士前期課程の理念を踏まえ、地域の健康問題を創造的に解決していく専門性の高い看護実践能力と看護の教育、研究能力を有する人材を育成し、保健・医療・福祉の質的充実・向上を目指すことを目的とする。

教育目標

1. 科学的思考と倫理的・文化的感受性に基づいた判断力・問題解決能力を備えた看護職者の育成
2. 保健・医療・福祉分野における他職種及び市民と協働できる調整能力を備えた看護職者の育成
3. 地域の特性を踏まえ、住民の保健医療ニーズに応える看護職者の育成
4. 生涯学び続ける看護職として、看護学の専門性を探究する看護職者の育成
5. グローバルな視野で看護の役割を創造する能力を備えた看護職者の育成

ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与方針)

看護学研究科は、以下の能力を身につけた大学院生に修士(看護学)の学位を授与します。

- (1) 科学的思考と倫理的・文化的感受性に基づいた研究能力
- (2) 地域社会や看護の課題に取り組み、看護学の専門性を探究する生涯学習力
- (3) 地域の特性を踏まえ保健医療ニーズを分析し、多職種と協働し看護を実践する能力
- (4) グローバルな視野で、看護の役割を創造する能力

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施方針)

ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)であげた能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

- (1) 看護専門職として実践・研究を遂行するにあたり、基盤となる批判的・論理的思考力を育成するために、共通必修科目と共通選択科目を配置する。
- (2) 看護実践および研究の質の向上に資する専門科目を配置し、志向する専門分野(基盤看護学分野、臨床看護学分野)における看護学の専門性を探究する能力を育成する。
- (3) 研究方法、研究デザイン、研究計画等、研究に必要な基礎を修得する演習科目(専門演習)および修士論文を作成する研究科目(特別研究)を配置する。
- (4) 修士論文の中間評価を行うとともに、修士論文審査に合格することを修了の条件とする。

入学定員、アドミッション・ポリシー

1. 入学定員 6名

2. アドミッション・ポリシー (入学者受入方針)

看護学研究科の教育目標を達成するために、本研究科に入学を希望する人には以下のことを求めます。

- ① 看護学の発展に向けて、自ら進んで取り組む意欲と探求する姿勢を持っていること。
- ② 多様化・複雑化・高度化する看護ニーズに応えるため、高度な知識、看護実践能力および研究能力の習得を目指していること。
- ③ 看護実践・教育・研究を通して地域社会や国際社会に貢献する意思を持っていること。
- ④ 本研究科教育課程で学ぶために必要な基本的知識・技能を有していること。

社会人も学べる教育環境

現職の看護師、保健師、助産師、看護教員等の社会人が仕事を続けながら学修できる教育環境を整備しています。

昼夜開講制を導入

社会人学生の事情を考慮して、昼間に加えて、平日の夜間や土曜日、休日、夏季休暇中の授業及び研究指導を受けることができる教育環境を整備しています。

長期履修制度を導入

長期履修制度を活用すると、2年間の学費で3年間在籍し、計画的に履修することができます。

施設の夜間利用

名桜大学附属図書館は、平日8:45~22:00まで(長期休業期間、講義のない日は17:00まで)、土曜日は12:00~18:00まで開館しています。また、大学院生専用の研究室・共同演習室を整備しています。

修了後の進路

看護学研究科修了後は、次のような進路を想定しています。

- (1) 医療現場における看護実践のスペシャリストとして、看護の質向上を目指した指導的役割を担う。
- (2) 教育・研究者として看護教育機関(看護系大学、看護系専門学校等)への就職、または博士後期課程へ進学する。

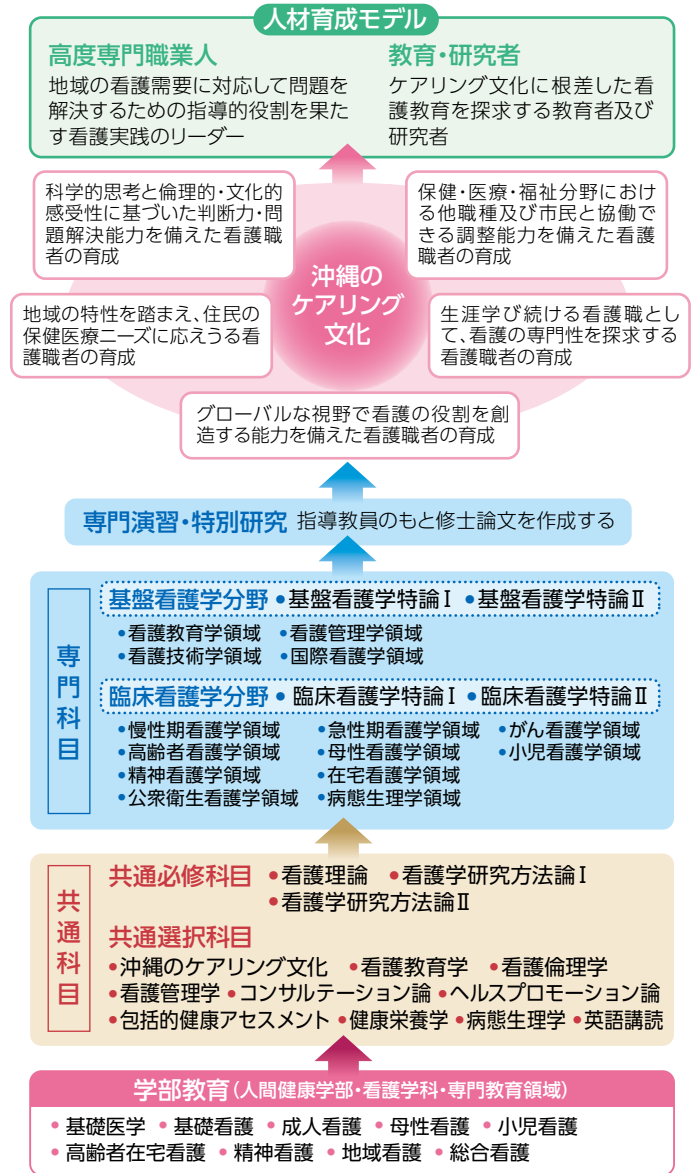


教育課程

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		修了要件	
			必修	選択		
共通科目	看護理論	1	2		必修科目3科目6単位を履修すること。	
	看護学研究方法論Ⅰ	1	2			
	看護学研究方法論Ⅱ	1	2			
	共通選択科目	沖縄のケアリング文化	1	1		4科目8単位以上履修すること。うち4単位は、国際文化研究科の共通科目や教育研究領域科目から履修することができる。
		看護教育学	1	2		
		看護倫理学	1	1		
		看護管理学	1	2		
		コンサルテーション論	1	2		
		ヘルスプロモーション論	1	2		
		包括的健康アセスメント	2	2		
		健康栄養学	1	2		
		病態生理学	1	2		
		英語講読	1	2		
専門科目	基盤看護学特論Ⅰ	1	2		基盤看護学分野または臨床看護学分野のいずれかを選択し、特論Ⅰ及び特論Ⅱの2科目4単位以上履修すること。	
	基盤看護学特論Ⅱ	1	2			
	臨床看護学特論Ⅰ	1	2			
	臨床看護学特論Ⅱ	1	2			
研究科目	専門演習	1	4		専門演習4単位、特別研究8単位を履修すること。	
	特別研究	2	8			

■ 修了要件の30単位のうち、共通選択科目の4単位は、国際文化研究科の共通科目や教育研究領域科目から履修することができる。

教育課程の概念図



修士論文

	修士論文テーマ	分野
2020年度	キネステティック・クラシックネオ体験学習後の更年期女性の動きの変容プロセスと心身状態の変化	母性看護学領域
	職場の協働者によるがん就労者の治療と就労の両立支援の現状と課題に関する文献レビュー	がん看護学領域
	がん患者の代理意思決定場面における家族間コンフリクトに対する看護師の支援とその阻害要因	がん看護学領域
	乳幼児を育てる母親の育児関連レジリエンスの関連要因の検討ー社会経済状態の高低に着目してー	公衆衛生看護学領域
2021年度	精神科入院患者の暴力への対応における看護師の体験ーCVPPPTトレーナー資格をもつ看護師への面接調査を通してー	精神看護学領域
	沖縄県へき地医療拠点病院の看護師が関わるオンライン面会の現状と課題ー支援体制に関する質問調査ー	がん看護学領域
	専門職における精神障害者の家族の生活を大事にした支援の検討	精神看護学領域
	介護老人福祉施設の看護師と介護士における看取りケアに対する認識の相違とその関連要因	がん看護学領域
2022年度	市町村保健師の職務能力に関する要因ーリフレクションを取り入れた現任教育の検討ー	公衆衛生看護学領域
	高齢がん患者の意思決定支援と看護師のエイジズムとの関係	がん看護学領域
	ハンセン病回復者における看護師の意思決定支援の実際	高齢者看護学領域
	沖縄県北部過疎地域における移動制約高齢者の外出支援の現状と課題	高齢者看護学領域
2022年度	精神科看護における自己一致を活用した看護実践の様相ー専門看護師および認定看護師へのインタビュー調査を通してー	精神看護学領域
	腫瘍細胞発現サイトカインがアミノ酸トランスポーターLAT1発現に及ぼす影響ー抗がん剤曝露によるサイトカイン発現亢進に着目してー	病態生理学領域
	新任期保健師が捉える若年母親への支援の現状と課題	公衆衛生看護学領域

基盤看護学分野

看護教育学領域

看護職者個々人のキャリア発達過程に応じた支援方法の開発

看護教育学領域では、生涯にわたり学び続ける、成長し続ける看護職者への支援について研究を行っています。看護教育学をとりまく社会や世界の動向を踏まえながら、看護基礎教育、ならびに継続教育の現状と課題を理解し、看護職者1人ひとりのキャリア発達過程に応じた関わりができる専門職者として、教育現場・臨床現場で活躍できる人材育成を目指しています。ディスカッションやプレゼンテーションを通して、看護の質を高めるための看護職者への教育的働きかけ、教育環境づくりなど、効果的な継続教育を実施していくために必要な知識や理論・技術について探求します。研究テーマは、遠隔離島へき地看護職の継続教育に関する研究、成人教育・成人学習に関する研究、看護師のキャリア形成・発達に関する研究などがあります。看護教育に興味のある方、自己教育力を高めたい方、看護職者の学習支援、キャリア開発について一緒に学びませんか。

【担当教員：清水かおり】

国際看護学領域

多文化共生社会における看護職の役割と可能性を追求

国や地域を越えた気候変動・自然環境の変化や災害、貧困、あるいは健康に関する共通課題が、次々と発生するグローバル社会の中で、看護職の役割は拡大しています。また日本で生活する在留外国人は、2022年末に300万人を超えました。3年前からのパンデミックがようやく収束に向かっている現在、多様な文化をもつ人々のニーズを尊重した看護ケアを行える人材が求められています。

国際看護学領域では、そのような状況をふまえ、国内・国外にかかわらず医療・保健・看護の現状を理解し、人々の健康を回復・維持・増進するための看護の課題について検討します。さらに開発途上国の社会背景や文化を踏まえた国際協力活動のありかたについて探求します。そして、多文化共生社会における看護職の役割と可能性について考察し、実践・研究することができる人材の育成を目指します。主な研究テーマは、在日外国人に対する健康サポート、文化と看護、海外研修が看護学生に与える影響についてです。「言語はもちろん大事だけれど、それを超える思いを知った」「私たちにとっての世界の共通言語は『看護』ですね。」そんな感想を話した学生たちの経験の意義、成長についても一緒に考えてみませんか。

【担当教員：横川裕美子】

臨床看護学分野

がん看護学領域

がん看護の質向上に向けたがん看護専門看護師の育成とエビデンスの開発

現在、がんは日本人の2人に1人が罹り、3人に1人が死亡する身近な病となっています。その一方で、免疫チェックポイント阻害薬やゲノム医療等、日々進歩する高度医療と早期発見・早期治療により5年生存率は60%を超えており、今や「死に至る病」から「がんと共存する」時代となりました。それに伴い、がん看護においては包括的な視点と卓越した知識と技能が求められています。

がん看護学領域では、がんの診断時期から終末期までがんとともに生きる人々とその家族の体験を広い視野から理解し、全人的ケアを実践するための土台となる理論や概念を考究していきます。さらに、治療や症状をはじめ緩和ケアや倫理的問題等の解決を図るがん看護専門看護師を育成します。地域志向性のあるカリキュラムを配置し、地域のがん医療に貢献できる人材育成を目指します。また、臨床で抱える疑問や課題を最新の研究から探求し、課題解決およびエビデンスの開発に取り組みます。

研究テーマは、がんAYA世代に関する研究や就労支援に関する研究、がん患者・家族の意思決定支援に関する研究等です。がん看護を楽しみながら一緒に探究しましょう！

【担当教員：玉井なおみ、木村安貴】

高齢者看護学領域

文化を踏まえた高齢者看護の発展

少子高齢社会において老年期を生きる人々の豊かで幸せな老いについて評価し実践できることは重要です。高齢者を生活者としてとらえ、高齢者のセルフケア能力やQOLを維持・向上するうえでの研究を文化的視点から取り組んでいます。

これまでの研究テーマとして、住み慣れた地域でその人らしく生活できるように公助、共助、互助、自助の視点とした地域包括ケアシステムの検討、有料老人ホームでの環境配慮要因の検討、高齢者ケアを担う看護職者の道徳的感受性の検討、また、地域で生活する高齢者の閉じこもりの予防、沖縄県の看取り文化、高齢者の意思決定支援、高齢者の会話と睡眠との関連などを多様な経歴をもつ院生及び教員とディスカッションして、研究に結びつけています。今まさに臨床の現場で起こっている高齢者を取り巻く現象に、目を向け、耳を傾け、創造力を駆使して、様々な視点から高齢者の方々とそのご家族の幸せのために、私たちの幸せのために、エビデンスを構築し、質の向上に向けた研究を是非一緒に学びましょう！

【担当教員：永田美和子】

母性看護学領域

母子と女性の健康エキスパートの養成

母性看護学領域では、日本の周産期医療システムの現状を理解し、マタニティステージにある母性の発達ならびに母子とその家族のwell-beingの実現に向け、次代につなぐ看護援助方法を探求します。また、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から、女性のライフステージの各段階における健康問題を探求し、その課題解決に向けた研究的アプローチを修得します。講義はゼミ形式で展開し、院生とディスカッションを通して探究すべき課題・課題解決に向けて検討し、科学的思考力とエビデンスに基づいた看護実践を探求していきます。研究テーマは、生殖医療を受療する対象者の理解と看護実践、周産期および女性の生涯にかかわる健康支援に関する研究、助産ケアのエビデンスに関する研究、産科施設と地域との連携に関する研究、助産教育に関する研究、臨床における助産ケアの倫理に関する研究などです。

近年の母性を取り巻く環境は大きく変化し続けており、新しい生命観、倫理観の創造が求められています。その変化に合わせてケアを科学的に考え、研究と実践の架け橋になる人材の育成を目指します。

【担当教員：阿部正子】

小児看護学領域

子どもと家族の健康生活を支える看護者の養成

小児看護学領域では、健康な子どもや急性期、慢性期、終末期、障害、在宅療養など健康のあらゆる段階にある子どもたちの最善の利益を基盤に、子どもと家族の健康生活の支援について学びます。また、講義は院生とのディスカッションを中心に、子どもの成長発達過程における母子関係や家族、環境との相互作用が与える影響を理解するため、関連する理論を学びます。そして、さまざまな状況下にある子どもが、その子らしく成長発達するための子どもと家族へのケアの実践や研究方法について探求していきます。

研究テーマとして、障害児とその家族に関する研究、医療的ケアを要する在宅療養児とその家族への支援に関する研究、被災した子どものたちへのケアに関する研究、小児看護学の教育方法に関する研究、プレパレーションに関する研究などがあります。皆さんが抱えている疑問を基に、小児看護に求められる課題解決方法や援助方法について、検討していきたいと思えます。これまで、蓄積してきた研究をさらに発展させたい方、これから小児看護研究に取り組みたい方など、本研究科で新たな一歩をスタートさせてみませんか。

【担当教員：流郷千幸、松下聖子】

精神看護学領域

臨床の課題の探求から精神看護学の発展に向けて

精神看護学領域では、院生の皆さんとのディスカッションを通して、根拠のある看護実践を確立していくための科学的思考能力を養いたいと考えます。主な研究テーマとしては、精神障害者及び家族のリハビリに関する研究、精神障害者の地域包括支援に関する研究、看護師や住民のメンタルヘルスに関する研究、看護師の倫理的ジレンマに関する研究、精神障害者への有効なケア技術の探求、精神看護学教育に関する研究などが例として挙げられます。これまでの臨床における経験や実践を整理したい、自分自身の成長のためにチャレンジしたい、研究する能力を高めたい等、それぞれの夢の実現に向けて、私たちと一緒に学びませんか。

【担当教員：平上久美子、村上満子、鬼頭和子】

公衆衛生看護学領域

地域の特性を活かした公衆衛生看護学の発展と創成に向けて

保健師は、「みる・つなぐ・動かす」の技術と知識を活かし、個別から地域の幅広い対象のより健康的な生活の質が担保できるように保健活動をする専門職種です。本公衆衛生看護学領域では、院生の興味・関心、経験と先行研究を教材にディスカッションを重ね、保健師活動の「暗黙知」を紐解きながら、「見える化（形式知）」を発見し、新たな公衆衛生看護学の知見や課題解決に必要な社会的責任や発見力、洞察力、連携力、統合力、教育力等の習得を目指しております。主な研究テーマは、育児期母親のレジリエンスや保健師の専門遂行能力とリフレクション、新任保健師の若年母親の支援、産業看護職に関する研究等です。

新型コロナウイルス感染症の対策では、保健師活動が注目され公衆衛生看護学について多面的に考える機会が増えました。そのような中、本学は、自然豊かで地域伝統行事や「ゆいまー（相互扶助）」を重んじるソーシャル・キャピタルがある地域に位置しています。このやんばる地域は、少子高齢社会の先駆的モデルとなる貴重な地域であり、この地域の特徴を活かした地域創生に向けた公衆衛生看護学に興味がある方は一緒に学びませんか。お待ちしております。

【担当教員：田場真由美】

在宅看護学領域

その人らしい暮らしを支える在宅看護学の発展を目指して

在宅看護学領域では、在宅での生活（暮らし）を支援する看護の役割と福祉との連携を目指し、在宅看護の現状と課題について探究します。また、沖縄県北部地域のフィールドワークを通して、在宅看護を取り巻く実践上の課題や倫理的判断についてディスカッションを重ねながら実践的に学びます。主な研究テーマは、沖縄の文化とケアリングに関する研究、看取りの文化とエンドオブライフケアに関する研究、島嶼地域における生活支援に関する研究、路上生活者や生活困窮者への健康支援に関する研究、暮らしを支えるケア技術の開発に関する研究、地域の介護力を高めるコミュニティケアやコミュニティナースに関する研究などです。沖縄を拠点に、様々な視点で在宅看護の可能性について一緒に学びましょう！

【担当教員：大城凌子】

病態生理学領域

病態生理を基盤とする看護実践

病態生理学領域では、正常な生体機能が如何に破綻し、異常が生じるかを明らかにするための病気のメカニズムについて研究します。先ず、どのような看護援助が身体機能をより正常な状態に戻すことが可能かを考え、対策を立て、如何にして実行に移せるかを国内外の文献等を渉猟しながら吟味します。次に、培養細胞等を用いたin vitroでの遺伝子解析、生化学解析やin vivoでの生理機能測定を活用した実験研究により病態の本質を探求します。大学院生自らが臨床で遭遇した興味ある病態を選んで疑問点を解決するために、研究計画を立案し、実験研究を行ない、解析し、考察できるように討論しながら指導していきます。主な研究テーマは、I型アレルギー疾患の病態、がん発生における中心体の役割、抗血栓機能の解明、Ca²⁺チャネルの調節機序の解明、さらに沖縄県北部地域の健康寿命延伸のための課題を明らかにすることです。細胞レベルから公衆衛生まで幅広い分野について一緒に学びませんか。

【担当教員：花城和彦】



学部からの大学院進学で感じたこと

臨床看護学分野 (がん看護学領域) 1年次

東谷 玲七



私は大学院で研究方法を学び、文献からの知見を読み取る力、問題を明らかにし、解決方法を導き出し発信する力を身につけたいと思い、学部から臨床での経験を経ずにそのまま大学院へ進学することを決めました。

がん看護領域の大学院では、ディスカッションをしながらより専門的にがんの知識を深めることができます。また、研究方法を学ぶことによって、よりクリティカルな視線で先行研究を吟味できるようになり、日々成長を感じています。そして何より魅力的なのが、大学院での生活は、研究に集中できるという点です。講義以外の時間は自分の研究に当てたり、講義も研究や実践の参考になります。そのため、学部の頃よりも研究や知の探究に納得するまで集中し、膨大な時間をかけて思考することができ、とても充実した日々を送っています。

臨床経験を経ずに大学院に進学することは不安もありましたが、物事のとらえ方や思考が日々成長する自分を実感し、大学院に進学して良かったと感じています。臨床での実践に役立ち、よりよい看護につながる研究を進めていけるように、日々思考を深めながら頑張っていきたいと思っています。

自分自身を磨くことができる場

臨床看護学分野 (がん看護学領域) 1年次

福島 桐子



私は、昨年度まで名桜大学看護学科に在籍していました。大学院進学を決めた理由としては、看護研究について学ぶだけではなく、自分自身の思考力や物事を伝える力をさらに鍛えていきたいと考えたためです。大学院の講義では、プレゼンテーションやディスカッションが中心となってきます。単に知識について学ぶだけではなく、講義のテーマに対する疑問や関心を持ちながら講義に臨む姿勢が必要となってきます。日々の学びを通して物事を伝える力だけではなく、クリティカルに考える思考や探究する力が鍛えられているのを感じています。

また大学院では、自身と同じストレートで進学した学生だけではなく、臨床経験のある方や、教員として働きながら学んでいる方も在籍しています。研究について相談をしたり、ディスカッションをしたりと、日々様々な刺激を頂いています。臨床経験がないことに不安を感じていましたが、大学院では幅広い視点や考え方を学ぶことができる貴重な場だと感じています。

知識の獲得だけではなく、自分自身をさらに磨いていける場、それが大学院だと考えています。興味のある方は、ともに学んでみませんか？

学部から大学院進学への決め手 ～なりたい自分になるための通過点～

臨床看護学分野 (がん看護学領域) 1年次

宮良 香帆



私は、昨年度まで名桜大学看護学科に在籍しており、卒業後そのまま大学院への道を決めました。大学院への進学を決める時は、臨床経験を積み、多くの患者さんやご家族と出会う中で自分が探求したい分野を決める方が良かったと悩みました。振り返ると大学院への進学の手は将来のなりたい看護師像でした。私は離島でがん専門看護師として離島が抱えるがん看護の課題と向き合える人材になり、がん患者と家族の支援をしたいと考えています。しかし、学部の卒業研究を通して情報を探索する力、論理的に他者に意見を伝える力、批判的に物事を捉え本質に近づく力が不足していることを痛感しました。そこから、なりたい看護師像に一步近づくために大学院でそれらの力を身につけ、臨床現場に行くことを決断しました。大学院では、看護研究のことはもちろん、関心のあるがん看護分野について自ら深く学ぶことができます。また、共に学ぶ同期の仲間や臨床経験を得た先輩方と語り合いを通し、刺激を得ることができ喜びと成長を感じています。学部からストレートで進学を考えている方、ぜひお話を聞きに来てください。一緒に学ぶ楽しさと自身の成長を分かち合しましょう！



大学で学ぶこと

基礎看護学分野 (看護教育学領域) 1年次

糸数 卓弘



私は、仕事と学業の両立と遠距離から通学するため、入学当初から長期履修制度を利用しています。講義の一部はオンラインを活用し自宅で受けることができ、遠距離でも学べる環境はありがたく感じています。

看護理論の講義で学んだ「理論なき実践は盲目である」という言葉が印象に残っています。理論を学ぶことで、臨床で看護実践が変わり、患者の変化を体験し、理論を学ぶ必要性を理解しました。

基礎看護教育学特論Ⅱでは、自施設の教育カリキュラムの現状分析、対象者へのアンケート調査と分析を行い「教育ニード・学習ニード報告書」として看護部に提出し、師長会でも報告を行いました。その時感じたことは、大学院で学ぶことは、組織に変革をもたらす役割があるのだと実感しました。

現在は、看護研究計画書を作成しています。初めて行う作業に戸惑いもありましたが、指導教員の分かりやすい指導のおかげで、もう少しで完成するところです。卒業後は、自施設の看護研究に携わりたいと考えています。

入学当初は、漠然と学びたいという気持ちでしたが、1年間学んできた今、卒業後の役割を自覚した視点で学ぶように変化していると実感しています。

学ぶ楽しさを改めて経験する

臨床看護学分野 (公衆衛生看護学領域) 2年次

當山 ちひろ



大学院に入学し、2年目となりました。あっという間に1年が過ぎました。目の前の課題に追われることもありましたが、何とか乗り越えることができ、折り返し地点が見えてきました。昨日、産業看護職の方へインタビューを初めて行いました。ベテランの産業看護職の方から豊富な実践経験を聞くことができ、ワクワクが止まらない楽しい時間でした。いざ、データをおこすと、膨大な情報を整理する作業があり、初めての経験であるため、カタツリのようなスピードで作業を進めている所です。実際のインタビューでお聞きできた内容、その時間は私にとって貴重な宝物の様な感覚があります。いただいた貴重なデータをどうにかまとめてお返ししたいという思いで作業に取り組んでいる所です。仕事をしながらの研究作業は大変なのですが、集中する楽しさや研究方法を学ぶ面白さは大学院に来なければ分からないままだったのだらうと感じます。

現場で様々な課題に対峙し、モヤっと感じている方、仕事は続けてきたけど何か足りないと感じている方へ。大学院で一緒に学びませんか？大変さもありますが、それを超える何かがあります。

大学院で学ぶこと

臨床看護学分野 (精神看護学領域) 2年次

中西 康二

私は、現在精神科病院にて働きながら大学院にて通っています。

大学院では、院生や指導教員とのディスカッションを通して批判的な思考能力を養うことができます。さらには、認定看護師や大学の教員として働いている人など、様々な背景の人が院生におり、日々刺激を受けています。大学院では、研究を学ぶだけでなく、今までの自己の看護実践を振り返り、意味付けする機会となっており、精神科看護の奥深さを再認識する貴重な時間となっています。大学院に入学する前は臨床の看護実践と看護研究の関係性が不明確なところもありましたが、大学院での学びを通して実践と研究は切っても切り離せないものであると理解することもできました。

このような学びがある中で、去年はコロナウイルス感染症に罹患し、体調を壊してしまうなど不本意な1年となってしまいました。このことから自己の体調がベストでなければ研究に向き合うことができないということにも痛感しました。

これからは、仕事と学業を両立しながら健康管理にも気を抜かず自己の研究テーマに取り組んでいきたいと思っています。



大学院で学ぶということ

～自分の看護を見つめなおす～

臨床看護学分野 (がん看護学領域) 2年次

堀打 学

大学院に入学しはや一年が経ちました。授業で看護理論を学んだ経験から大学院で学ぶことの本質を考えたと思います。

アメリカの看護アカデミーから『生きる伝説』と称され、2018年にその生涯を終えた看護理論家のマーガレットニューマンは非疾病と疾病の両者を合わせて『健康』であると述べています。これは非疾病と疾病を2元論ではなく統一体として捉えるものです。そして、『健康とは拡張する意識』であると述べています。私は、『健康とは拡張する意識』という言葉を見て、なんて“非科学的”な言葉なのだろうと思いました。しかし、この理論を深く学び理解すると、自分の看護に対する捉え方がいかに医学モデルに沿ったものであるか気づかれ自分がバカバカしく思え、看護に対する捉え方にパラダイムシフトが起きるほどの経験をしました。

読者の中には、研究テーマや臨床上のモヤモヤがあり研究で明らかにしたいと思う方が多いのではないのでしょうか。私が大学院に入学した目的も、『研究』です。しかし、私は大学院で学ぶことの本質は研究ではないと思っています。私が思う大学院で学ぶことの本質は今一度立ち止まり『自分の看護を見つめなおす』ことだと思っています。



Special Message

大学院で学んでいる
看護学研究科の在学生から
進学を考えているあなたへ

大学で学ぶこと

臨床看護学分野 (高齢者看護学領域) 2年次

富山 千穂

私は大学卒業後、看護師や保健師として臨床経験を積み、その中で、「本人の希望に沿った看取りとは何か」、「文化を取り入れた看取りケアとは何か」と疑問に思い、研究をしたいと考え、名桜大学大学院博士前期課程に入学することを決めました。入学を決めるまでは金銭面や仕事の両立に対する漠然とした不安もありましたが、家族と話し合い理解と協力が得られたこともあり、今では大学院に進む道を選んで良かったと思います。

大学院は、基本的に夜間に講義が行われます。共に学ぶ大学院生は、学部卒業後に大学院へ進学した学生や臨床等で仕事をしている学生もいるので、様々な意見を聞くことができます。多様な価値観に触れることで、これまで臨床で抱いていた疑問が解決されることもあり、日々刺激となっています。仕事と大学院の二足の草鞋を履く生活は大変なこともあります。しかし、自身の疑問が研究を通して解決することの重要性も実感しています。家族や院生、博士前期課程の先生方など様々な人の支援を得て、充実した日々感謝しながら大学院生活を送っています。

是非、大学院と一緒に学んでみませんか。



大学で学ぶ

臨床看護学分野 (病態生理学領域) 2年次

柳迫 和徳

私は学部生の時、卒業研究でヒトの血管内皮細胞を用いて食後高血糖による血管機能障害について探求しました。細胞や遺伝子レベルの実験研究であり、戸惑うことも多々ありましたが、基礎研究の楽しさを知りました。卒業した後は集中治療室と心臓カテーテル室で看護師として勤務しました。心筋梗塞や脳梗塞で入院してくる患者を多く見てきました。生命の危機に瀕する方や手足に麻痺が出た方を見てきて、血管障害の予防の重要性を感じました。そして、血管障害の予防について研究したいと思い、細胞や遺伝子レベルの基礎研究ができる名桜大学大学院に進学しました。現在は粥状動脈硬化の形成過程に着目し、粥状動脈硬化の形成を沖縄の特産品であるシークワサーの成分であるノビレンで抑制できるのか調査しています。私は長期履修制度を利用しながら看護師も常勤で続けています。臨床経験を積みながら、研究ができる環境にありがたさを感じています。引き続き、大学院生活を支えてくれる皆さんに感謝を忘れず、1日1日を大切に過ごしていきたいです。



大学院で学ぶ Q & A よくある質問にお答えします!

Q 令和6(2024)年度の入学選抜(入試)はどのように実施されますか?

A 令和6(2024)年度の入学選抜は、筆記試験(英語、共通科目、専門科目)、面接の各試験を試験会場(対面式)で実施します。入試日程と概要を冊子裏面で確認してください。また、入試の詳細については、学生募集要項(7月上旬発行)を確認してください。

Q 専門学校卒業ですが、大学院に進学できますか?

A 進学することは可能です。入学された皆さんの多くが、専門学校卒業の方々です。手続きとしては、出願する前に、出願資格審査を受けていただくことで受験が可能となります。詳しくは名桜大学HPもしくは入試・広報課(TEL.0980-51-1056)にお問い合わせください。

Q 大学院へ進学したいのですが?

A 受験を希望する方は、指導を希望する教員又は研究科長に必ず事前にご相談ください。10月試験が10月上旬、2月試験は翌年の2月上旬にあります。10月試験は3~4カ月前くらいから相談をしていただき、必要な書類は受験の1~2カ月前くらいまでに手元に用意しておくことと余裕をもって受験ができると思います。希望される方は、随時相談ができますので、各教員もしくは入試・広報課(TEL. 0980-51-1056)にご連絡ください。

Q 事前の指導教員との相談を受けるには、どうしたらよいのでしょうか?

A 募集要項に指導教員情報を掲載していますので、直接連絡をしていただいてもかまいません。もし、教員が不在の場合には、メールをしていただくか、入試・広報課(TEL. 0980-51-1056)にお問い合わせください。

Q まだ研究テーマがはっきりしていないので、どの先生に相談してよいのか、わかりません。

A どの領域や研究テーマがよいのか定まらない場合にも、遠慮なくご相談ください。大学のオープンキャンパスでご相談いただけます。

Q オープンキャンパスはいつですか?

A 令和5(2023)年度は、6月10日(土)*、8月12日(土)*の開催を予定しています。スケジュールなどは名桜大学HPでご確認ください。入試・広報課(TEL.0980-51-1056)にお問い合わせください。当日は研究科担当の教員による進学相談コーナーを設けています。

*キャンパス内(対面式)で開催します。HPで詳細の確認・事前申込を行ってください。

Q 仕事を辞めることができません。大学院では、働きながら学ぶことができますか?

A 働きながら学ぶことができます。本大学院では大学院設置基準第14条の「教育方法の特例」を適用し、昼間だけでなく夜間にも講義、演習などを開講しています。夜間の講義は18時15分からなので仕事を終えてから受講することができます。また、長期履修制度を利用することもできます。

Q 長期履修制度とはどのような制度ですか?

A 長期履修制度とは、職業を有している等の事情により、標準修業年限(博士前期課程:2年間)では修了が困難である方が、本来の履修期間を超えて3年間で学べる制度です(標準修業年限を超える授業料の支払いはありません)。但し、入学手続きまたは入学後1年以内に申し出る必要があります。長期履修が認められた場合、標準修業年限を超える分の授業料の増額ははありません。

Q 大学院に入学前に準備しておくといふことは何でしょうか?

A 在職しながら大学院で学ぶためには、職場の理解や協力が必要になります。看護研究方法について基礎的知識をもっていること、英語文献を読むことに少しずつ慣れておくといふと思います。

Q 入学願書の出願手続きはどのようになっていますか?

A 学生募集要項をご確認ください。また、入試・広報課へお問い合わせください。



Q 英語が苦手です。入学試験の対策はどのようにしたらよいのでしょうか?

A 基礎的な読解力をみるための問題になっていますので、高校の英語のテキストから慣れていくといふと思います。慣れてきたら、新聞の記事や看護系の論文と文章量を増やし、継続して読んでいくといふと思います。

Q 入試過去問題を見ることはできますか?

A 過去に実施した入試問題は、名桜大学入試・広報課窓口および名桜大学HPでも閲覧できます。



学費等納入金

看護学研究科			看護学専攻	
			地域内	地域外
学 費	入 学 金		125,000円	250,000円
	授 業 料	前 期	267,900円	267,900円
後 期		267,900円	267,900円	
諸 経 費	後援会費	入 学 手 続 時	20,000円	20,000円
	学生教育研究・災害傷害保険	入 学 手 続 時	1,750円	1,750円
	学研災付帯賠償責任保険	入 学 手 続 時	1,000円	1,000円
合 計		初年度納入総額	683,550円	808,550円
初年度納入総額内訳		入学手続時納入金	415,650円	540,650円
		後学期納入金	267,900円	267,900円

※諸経費は、入学手続時に2年間分を納入します。 ※総合補償制度「WILL」(保険)については、希望者のみ必要に応じ随時加入できます。

地域内・地域外の入学金について

入学金については、志願票に記載されている事項に基づき、以下のとおり取り扱うことになります。

(1) 地域内に該当する者とは次のいずれかに該当するものをいう。

- ① 入学する者の卒業した出身高等学校が沖縄本島北部12市町村に所在していること。
- ② 入学する者の住所が沖縄本島北部12市町村にあり、令和5(2023)年3月31日以前から1年以上継続して在住していること。*
- ③ 入学する者の保護者、配偶者又は一親等の親族の住所が沖縄本島北部12市町村にあり、令和5(2023)年3月31日以前から1年以上継続して在住していること。*

※令和5(2023)年3月31日時点で1年以上の継続在学期間があることを指しています。

＜沖縄本島北部12市町村とは＞

沖縄県の「名護市」、「国頭村」、「大宜味村」、「東村」、「今帰仁村」、「本部町」、「恩納村」、「宜野座村」、「金武町」、「伊江村」、「伊平屋村」、「伊是名村」のことを指します。

(2) 上記①～③以外の者は「地域外」となり、入学金が「250,000円」となります。

(3) 本学卒業生については、入学金は「地域内」の半額「62,500円」となります。

入学後の奨学金制度その他について

経済的な負担軽減を図るため、大学院奨学金制度があります。

また、看護学研究科の全大学院生への研究支援として、書籍や消耗品、学会発表に要する旅費交通費について研究支援補助金が支給されます。

施設MAP

